

反復記号・略記号

反復記号・略記号とは？

反復記号・略記号とは、楽曲内の繰り返しや、同じ記号の表記を省略して表す言葉や記号のこと。例えば、同じ楽曲でもリピート記号を用いることで以下のように省略して記譜できる。

■ リピート記号なし

この内容は一緒

この部分は違う

■ リピート記号あり

1.

2.

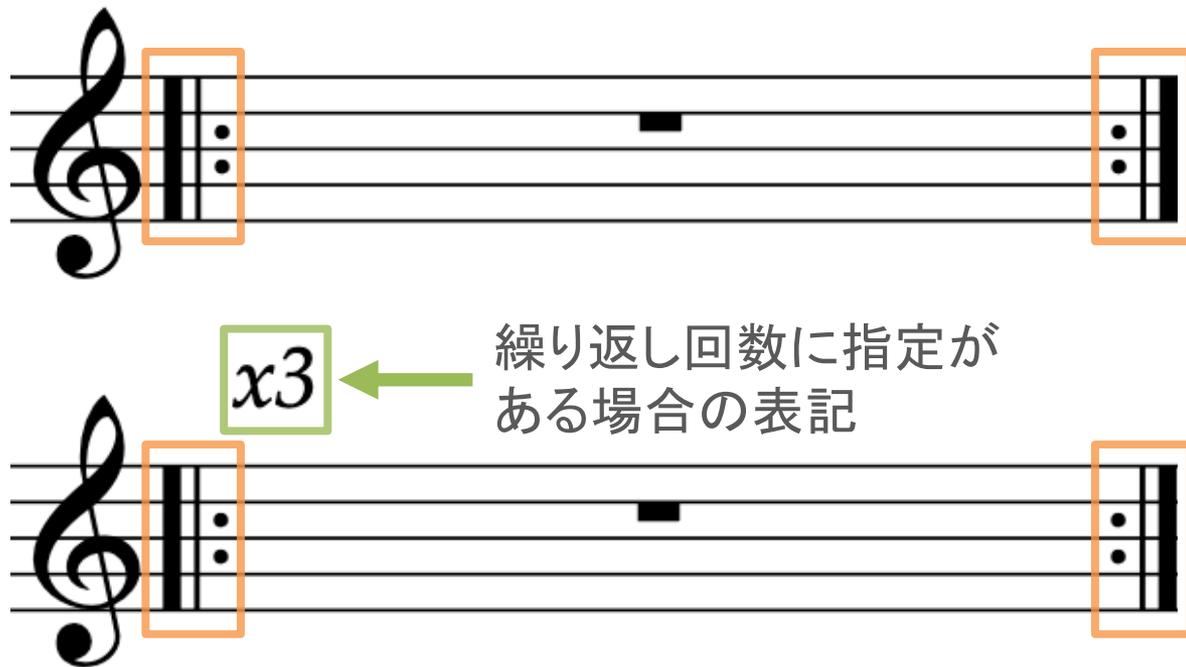
反復記号

反復記号は、小節単位での繰り返しを省略して表す記号です。

- リピート
- 1番かっこ、2番かっこ
- ダ・カーポ
- ダル・セーニョ
- フィーネ
- コーダ(ヴィーデ)

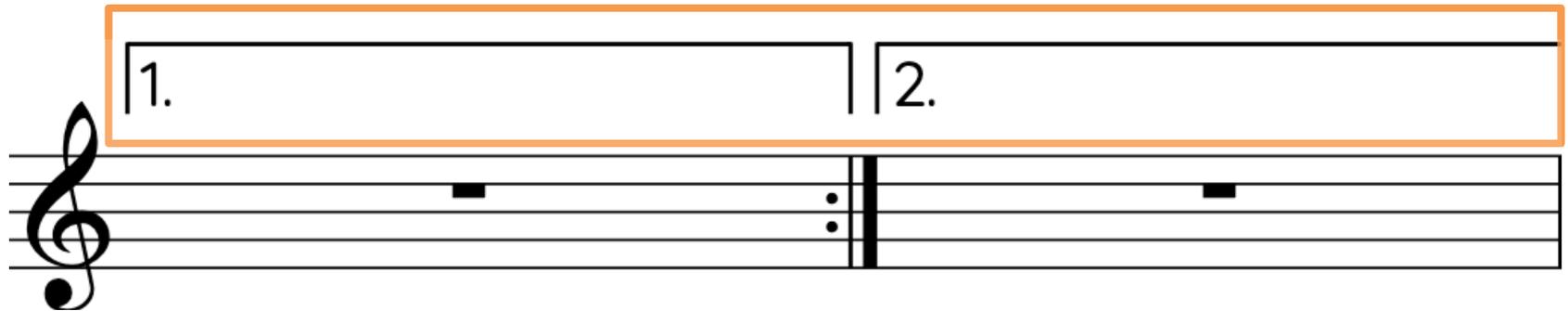
リピート

リピート記号で囲まれた小節を、2回演奏することを指示する記号。3回以上繰り返す場合は「x3」や「3 times」など、繰り返す回数が追加されて表記される。



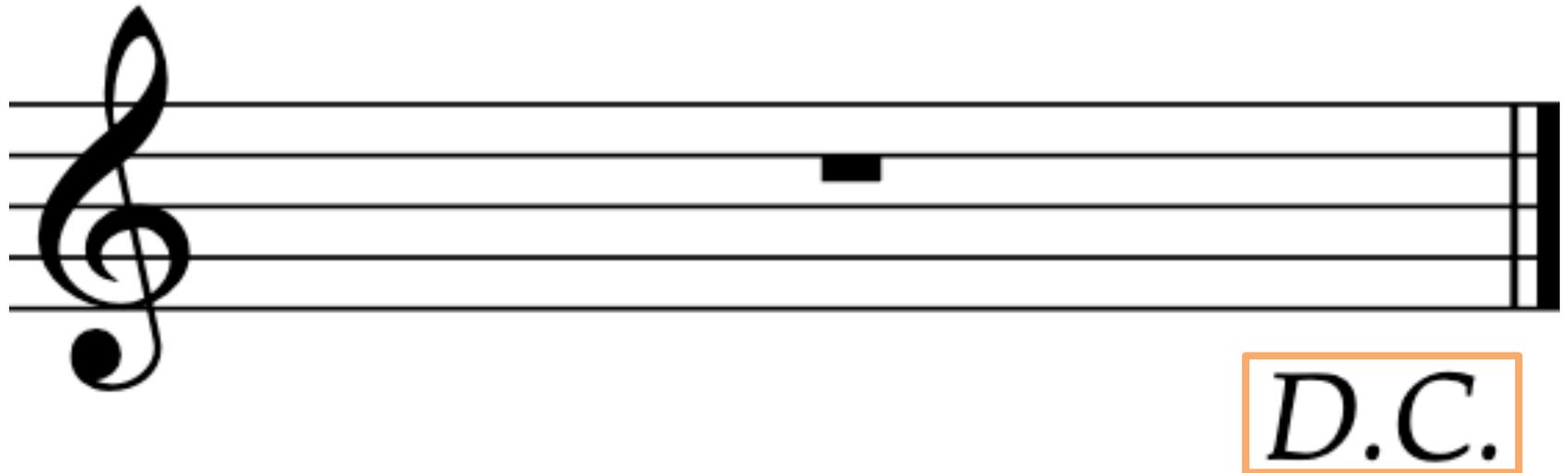
1番かっこ、2番かっこ

リピート記号と併せて使われる記号で、リピートの終わり部分が異なる場合に使われる。また3番かっこなどの。3以上の数字が使われる場合は、必然的にリピート記号での反復が2回よりも多くなること指す。



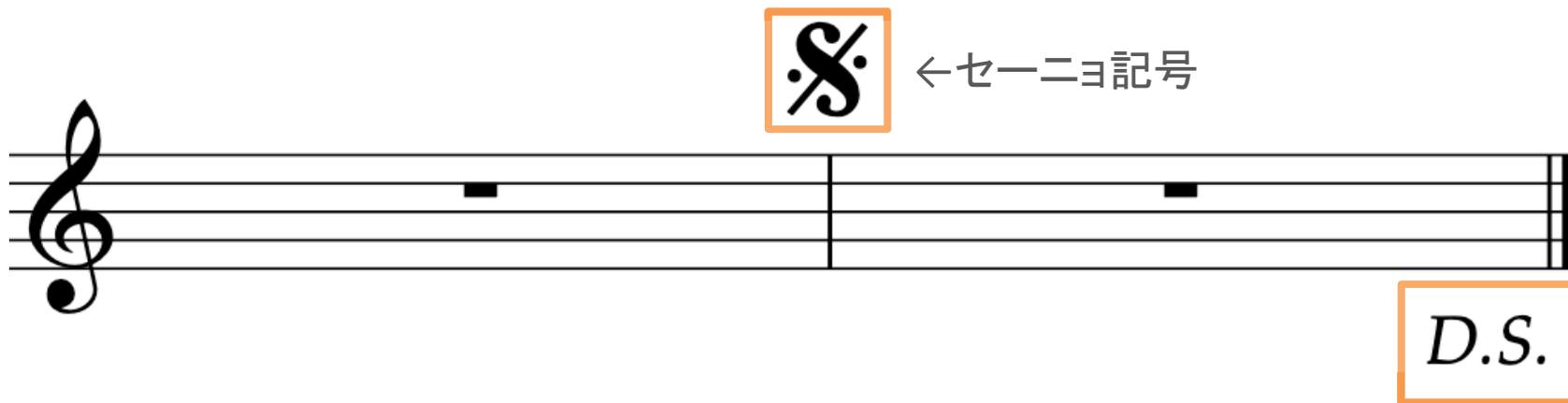
ダ・カーポ

ダ・カーポ記号(D.C.)まで到達したら、最初の小節に戻って演奏することを指示する記号。



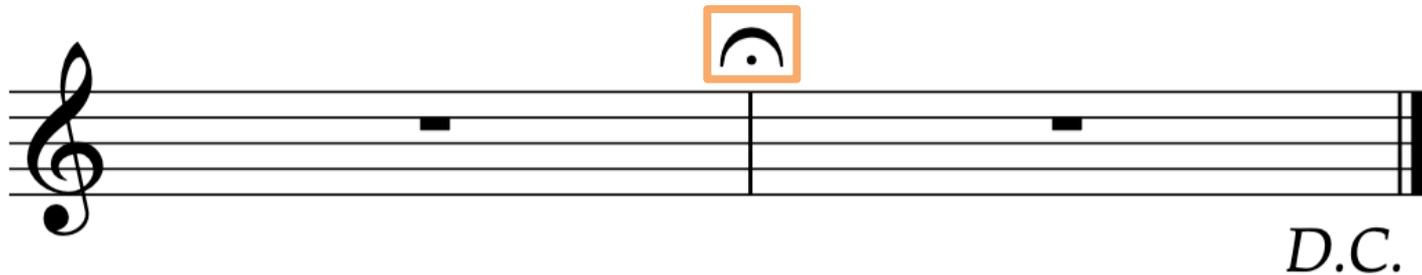
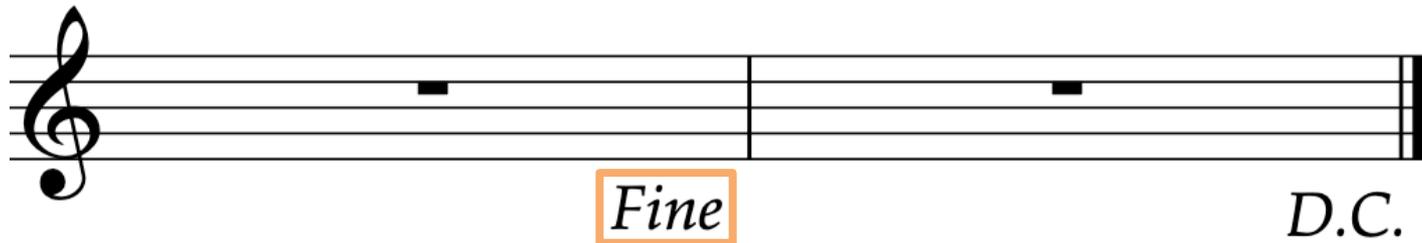
ダル・セーニョ

ダル・セーニョ記号(D.S.)まで到達したら、セーニョ記号に戻って演奏することを指示する記号。



フィーネ

ダ・カーポや、ダル・セーニョで戻った後に、フィーネ記号(Fine)の位置で終止することを指示する記号。まれに、小節線の上にフェルマータ記号で表される場合もある。

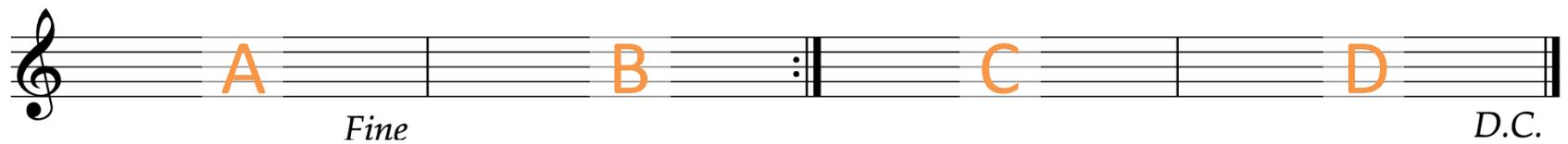


コーダ（ヴィーデ）

ダ・カーポ、ダル・セーニョで戻った後に、コーダ記号から、もう1つのコーダ記号にジャンプし、そこから演奏することを指示する記号。譜面の最初に出てくるコーダを「トゥ・コーダ」もう1つのコーダを単に「コーダ」と呼ぶことが多い。（別名「ヴィーデ」記号とも呼ばれる。）

The image shows two musical staves. The top staff has a treble clef, a key signature of one sharp (F#), and a 3/4 time signature. It contains three measures of music, each with a whole rest. Above the second measure is a double bar line with a cross (Da Capo). Above the third measure is a box containing the symbol 'To Coda' (a circle with a vertical line through it) and the text '←トゥ・コーダ'. Below the staff is the marking 'D.S.'. The bottom staff also has a treble clef and contains three measures of music, each with a whole rest. Above the first measure is a box containing the symbol 'Coda' (a circle with a vertical line through it) and the text '←コーダ'.

反復記号の併用①



A → B → A → B → C → D → A

反復記号の併用②

Musical notation on a treble clef staff showing a sequence of notes A, B, C, D, F, G. Above the staff, a bracket labeled "1." spans notes A and B, and another bracket labeled "2." spans notes C and D. A repeat sign is placed between B and C. A double bar line with a repeat sign is placed between D and F. The word "Fine" is written below the staff under note F, and "D.S." is written below the staff under note G.

A → B → A → C → D → F → G → F

反復記号の併用③

To Coda

D.C.

Coda

A → B → C → A → D → F → G

略記号

音符や拍単位での繰り返しや、五線をはみ出るような音高や繰り返す音列、奏法を省略して表すための記号です。

- オッターヴァ・アルタ & クインディチェジマ・アルタ
- オッターヴァ・バッサ & クインディチェジマ・バッサ
- シミレ
- 小節のシミレ
- 拍のシミレ

オッターヴァ・アルタ & クインディチェジマ・アルタ

指定された範囲を、記載された音高よりも上のオクターブで演奏することを指示する記号。「8va」と表記されるものをオッターヴァ・アルタと呼び、1オクターブ上で演奏、「15ma」と表記されるものをクインディチェジマ・アルタと呼び、こちらは2オクターブ上で演奏する。

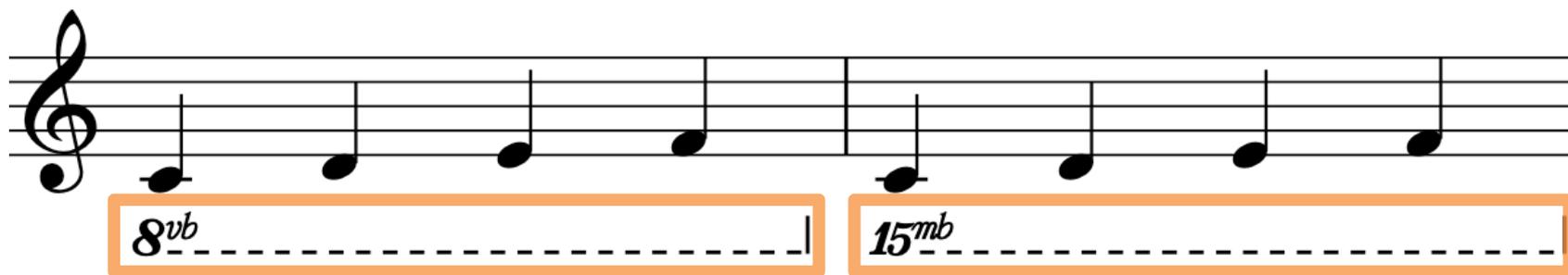
オッターヴァ・アルタ

クインディチェジマ・アルタ

The image shows a musical staff with a treble clef. The staff is divided into two measures. Above the first measure, there is a dashed line with a vertical bar at the end, labeled '8va'. Above the second measure, there is a dashed line with a vertical bar at the end, labeled '15ma'. The notes on the staff are: G4, A4, B4, C5 in the first measure; and G4, A4, B4, C5 in the second measure. The notes in the second measure are positioned higher on the staff than in the first measure, illustrating the effect of the 15ma marking.

オッターヴァ・バッサ & クインディチェジマ・バッサ

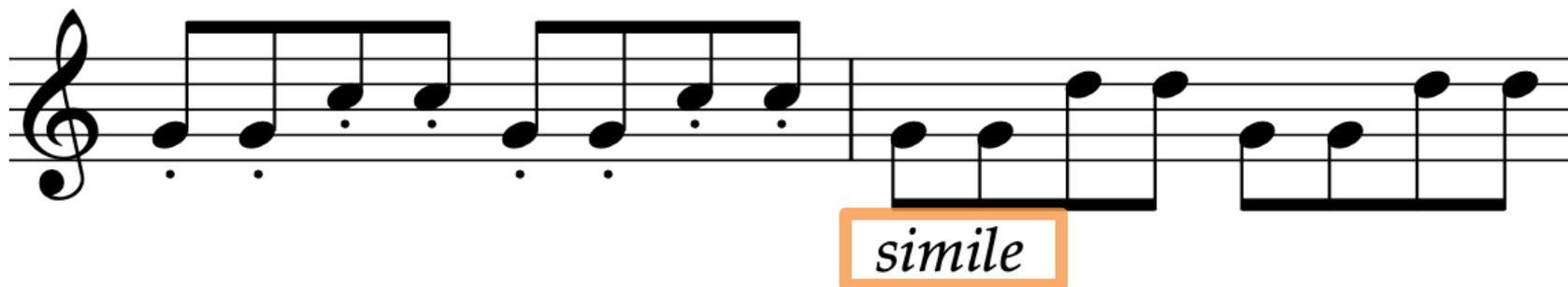
指定された範囲を、記載された音高よりも下のオクターブで演奏することを指示する記号。「8vb」と表記されるものをオッターヴァ・バッサと呼び、1オクターブ下で演奏、「15mb」と表記されるものをクインディチェジマ・バッサと呼び、こちらは2オクターブ下で演奏する。



オッターヴァ・バッサ クインディチェジマ・バッサ

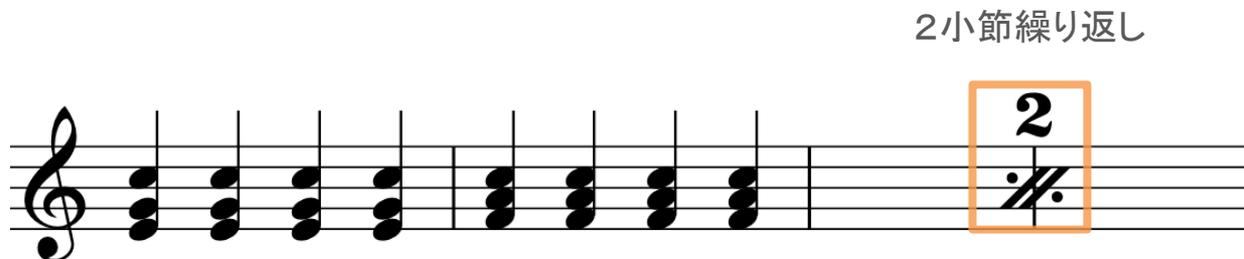
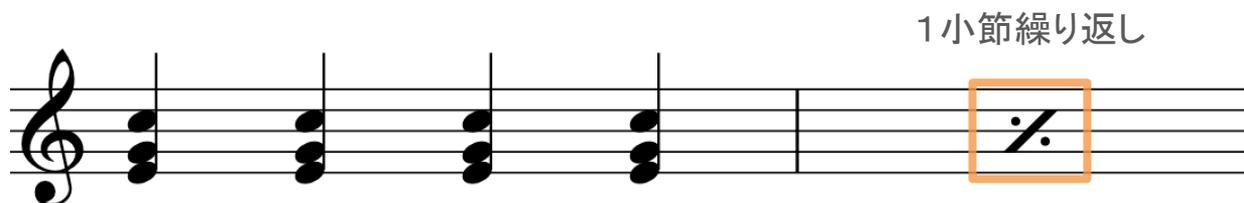
シミレ

直前の小節と、同じアーティキュレーションや音列を以降の小節にも適応して演奏することを指示する記号。音列のうち、1音だけが変わるが、音価やアーティキュレーションは変化しない場合などに用いられる。シミレは「同様に」という意味があり、「Sim.」とさらに省略されて表記されることもある。



小節のシミレ

直前の小節と、全く同じ音列を繰り返して演奏することを指示する記号。文字の表記と違い、音列やアーティキュレーションに全てにおいて変化が無い場合にこのような表記になる。直前の何小節を繰り返すのかによって「/」の本数が変わる。



拍のシミレ

「/」が表記される直前の拍と、全く同じ音列を繰り返して演奏することを指示する記号。小節のシミレと意味はほとんど変わらず、範囲が小節単位か、拍単位かの違い。

